

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ サカバ ヒロコ 氏 名 坂場 寛子	職 名 講師 人間学部 子ども教育学科	取得学位 博士(国際文化) (大学名) 東北大学大学院 (取得年月) 2022 年 3 月
------------------------------------	---------------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 英語の授業における ICT の活用	2021.4 - 現在	英語の授業において、Google Classroom, Google Form, QR コード、動画等を活用し、分かりやすさや学習動機づけに配慮した授業を行なっている。授業学生からの評価も良好である。
2. 英語の授業における教材作成	2021.4 - 現在	プレゼンテーション用スライド、ワークシート、インタラクティブ PDF など多種類の教材を自作し、目的に応じて使い分けて英語の授業を実施している。スライドを作成する際は、視覚的に分かりやすいデザインを心がけ、ワークシートを作成する際には、受講学生が自ら考え、アクティブラーニング(ペアワークやグループワークを含め)を促すことを意識している。これらの教材を活用した授業では、受講学生は積極的に授業に参加し課題に取り組んでいる。また、授業学生からの評価も良好である。
3. 「子ども発達総合演習 I, II, III, IV」、「子ども教育総合演習 I, II, III, IV」におけるデザイン教育	2023.4 - 現在	「子ども発達総合演習 I, II, III, IV」、「子ども教育総合演習 I, II, III, IV」(ゼミ)では、「学びのためのデザイン研究」をテーマとし、保育・教育とデザインの関わりや、保育・教育分野におけるデザインの活用の可能性について、文献調査、デザイン制作、ディスカッションなど、学生が主体的に学び考える方法でゼミ活動を行っている。ゼミ生によるレポートやディスカッションの内容から、「デザイン」という新しい視点で物事を観察、考察する力が養われていることがうかがえる。
4. 英作文の授業における生成 AI の活用	2025.4 - 現在	学生の英作文に取り組むモチベーションとその能力を向上させるため、「英作文 II」の授業内ライティング活動に ChatGPT を取り入れ始めた。学生は、ChatGPT を用いて自分が書いた英文の日本語訳と文法の確認し、課題の提出前に自身で再考し英文を修正することができている。さらに、個別の指導を行うことにより、これまでより意欲的にライティングに取り組

		む様子が伺える。
--	--	----------

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
【学位論文】						
1. 高大接続英語教育のための基本動詞 TAKE の研究—コーパス駆動型アプローチ—	単	2019. 3	東北大学大学院国際文化研究科応用言語学専攻修士論文(修士学位論文)			100頁(A4版)
2. 英語基本動詞の実践的用法の視覚化と学習動機づけに関する研究	単	2022. 3	東北大学大学院国際文化研究科応用言語学専攻修士論文(博士学位論文)			132頁(A4版)
【論文】						
1 . Usage Patterns and Meanings of High-Frequency English Verbs: A Multi-Word Expression Approach to Japanese High School EFL Textbook Analysis	共	2021. 7	International Journal of Applied Linguistics and English Literature, 10(4)	岡田毅		116-130
2. 教育用インフォグラフィックスの制作ガイドライン構築に向けた基礎的研究—デザイン概念とプロセスに関する分野統合的テキスト分析	単	2021. 11	日本デザイン学会『日本デザイン学研究』第 68 巻, 2 号			59-68
3. 英語基本動詞学習のためのインフォグラフィックス教材 —動機づけモデルにもとづく制作・教育実践・評価—	単	2022. 1	日本英語英文学会『日本英語英文学』第 31 号			47-74
【その他】						
1. 英語語彙指導におけるインフォグラフィックスの可能性 —take care of+目的語を例として—	単	2020. 1	大修館書店出版『英語教育』第 68 巻,11 号			66-67

翻訳						
翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
1. 連語表現はどのように構成されるかー英語教育への応用に向けてー	2019. 8	全国英語教育学会第 45 回弘前研究大会、弘前大学 (ポスター発表)
2. 英語話し言葉コーパスにおける基本動詞 TAKE を含む連語表現ー「意味のまとまり」に基づく体系的抽出方法の提案ー	2019. 10	英語コーパス学会第 45 回大会、高知県立大学 (口頭発表)
3. 英語教科書においてどのようにイラストが機能しているか?ー日本の高校英語教科書に着目してー	2020. 2	Thammasat University-Tohoku University-NIDA International Symposium on Japanese Studies 2020 :Harmonization of cultural studies and language studies、タマサート大学(バンコク) (国際シンポジウムにおける口頭発表)

II 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
英語コーパス学会	会員	2018. 4
大学英語教育学会	会員	2019. 4
全国英語教育学会	会員	2019. 2
日本デザイン学会	会員	2020. 4
日本英語英文学会	会員	2021. 2

III 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)

--	--	--	--	--

3. 特記事項

【非常勤講師・講師】

- ・宮城教育大学 全学教育「英語」(2021.4－2023.3)
- ・宮城教育大学「第二言語習得論」(2022.7－2023.3)
- ・特定非営利活動法人 学割 net 運営 まふまふ語学講座 英会話講師(2011.8－2013.5)

【講演等】

- ・高校英語教師主催の英語学習意見交換会(英語教師学びの会)「基本動詞 TAKE の使用パターン 一連語表現の指導への応用」研究発表(2019.5)
- ・宮城県伊具高等学校 キャリアセミナー 講師(2023.3)

【学内】

- ・学修支援センター主催の「英会話講座」(リメディアル教育)を担当した(2023年度)
- ・大学スクールバスのバスラッピングデザインコンテストで応募作品が教職員・学生の投票により選ばれ、新しいスクールバスのデザインを担当した(2023)
- ・子ども教育学科のInstagramアカウントを立ち上げ、アカウント運営を担当している。開設から1年でフォロワー数は300を超えた(2024.5-現在)